

クレジットカードの最適な手数料

一橋大学大学院 山城健

< 報告要旨 >

クレジットカード発行会社は手数料として、カード保有者からカード手数料（年会費）
アクワイヤラーから *interchange fee* を徴収している。カード手数料はカード保有者から直
接徴収されるため、その分カード保有者の資産を減少させる。一方 *Interchange fee* はアク
ワイヤラーを通じて小売店から小売店手数料として徴収され、財価格に影響すると考えら
れる。したがってカード手数料や *interchange fee* が変更されると、消費者の予算集合に影響する。

また、消費者はクレジットカードで支払いを行うことによって財代金の支払いを遅らせ
ることができ、クレジットカードでの支払いはカード発行会社からの借入れであると考
えられる。

Visa や MasterCard に加盟している小売店は、カード払い時の財価格に比して現金払い
時の財価格を割引くことを禁じられており、いくつかの先行研究はそのような状況下での
interchange fee について分析しているが、それらの研究では、小売店に財価格の割引きが
認められる場合には *interchange fee* の水準だけでは消費者の厚生に影響を与えない。

本稿では、消費者は財代金を借り入れるためにクレジットカードを用いる、とする枠組
みにおいて、カード利用者のデフォルトに対するコストのような、カード利用額の一定割
合分のコストが存在する状況を考え、クレジットカードの最適なカード手数料及び
interchange fee について分析する。

本稿の結論は、小売店市場が十分競争的かつカード利用額の一定割合分のコストが存
在する場合には、財価格の割引きが認められたとしても消費者の厚生を最大化する
interchange fee は 0 となる。

< 討論者からのコメント >

早稲田大学 晝間文彦氏

本論文の目的：小売の完全競争市場での長期均衡のもとで、一部の消費者がカード発行
者を通じてのみ借入れが可能な場合に、消費者の厚生を最大にする意味での最適な手数料
と *interchange fee* の決定を 2 期間モデルで検討し、現金購入とカード購入価格はインター
チェンジ・フィー分だけ異なると仮定した上で、命題 1, 2 を導出している。以下の質問
の (1) から (4) は命題 1, 2 に関する質問。

- (1) 完全競争下の長期均衡において、カード保有者の効用を最大にするためには、消費
可能範囲を最大にするため、 $a = 1$ 以外にないのは明らかではないか。
- (2) また、完全競争市場かつカード保有者の効用最大化のために、カード発行社の利潤

は0なので、カード発行会社は、間接的にカード保有者に代わって金融市場に参加しているに過ぎない。0でない α を形の上でカード発行会社が手数料でカバーするだけで、実質的にはカード保有者が負担しているに過ぎない（そもそも、 α がなぜ0でないかも不思議である）。したがって、実質的には最適な手数料の決定という問題は存在しないのではないか。

- (3) $\alpha = 0$ のときは、消費者自身が金融市場に参加できる通常の2期間モデルの異時点間予算制約になるので、この時の最適なカード手数料およびインターチェンジ・フィーはそもそも0でないか。つまりこのモデルは不適當ではないか。
- (4) 複数カードと1枚カードとの実質的な違いは何か？
- (5) 5の独占的手数料の議論は、それまでの消費者（具体的にはカード保有者の効用最大化という意味での）最適な手数料を決定する議論ではなくて、独占の利潤最大化手数料の議論に変質してしまっているのではないか。
- (6) カード自体のもつ利便性を追求すべきだが、ここでは消費者自身が金融市場にアクセスできないという不自然な仮定をおいた上で、それを回避する手段としてカードをとらえているにすぎないのではないか。
- (7) たとえば、カードのもつネットワーク外部性の利益を最大化することが利用者の利便性につながると仮定して、それを最大にするように、ネットワークの維持費用を、消費者に対する手数料、加盟店（またはアクワイヤラー）に対するインターチェンジ・フィーで調達しつつ、どう配分すればよいか、といった問題設定はどうか？

< 討論者からのコメントに対する回答 >

- (1) カードコストがカード使用額に比例した形ではない場合には、必ずしも $\alpha=1$ 以外に消費可能範囲を最大化するものはないとは限りません。
- (2) カードコストをカード手数料と interchange fee の形でカード利用者が負担する際に、消費者の厚生を最大化するものを最適な手数料であると考えています。または、カード利用者のデフォルトにより回収できない部分、又はカード利用者のデフォルトに備えてカード発行会社が追加的に資金を保有することのコストを想定しています。
- (3) カード利用者の代わりにカード発行会社が負担した金利分のみを、カード手数料とインターチェンジ・フィーで徴収することになり、その合計額は0にはなりません。
- (4) 最適な手数料の決定に関しては、実質的な違いはありません。
- (5) ご指摘の通り最適な手数料の決定とは異なります。モデルの結論とは異なり実際には interchange fee が0ではないことに対する一つの理由付けとして、ここでは独占的な手数料の決定を考えました。
- (6) 消費者が金融市場にアクセスできたとしても、消費者個人よりもカード会社の方が

より低い金利で資金を調達できると考えられ、その場合でも結論は変わりません。

(7) 大変興味深い問題設定であり、今後考えたいと思います。